

# 素 顔 拝 見

摂食・嚥下リハビリテーション学分野・助教

中 村 由 紀

平成22年7月1日より摂食・嚥下リハビリテーション学分野の助教を拝命いたしました中村由紀と申します。長い歴史と豊かな伝統をもち、日本海と信濃川が流れる越後平野に囲まれた自然豊かな新潟大学のキャンパスで、臨床、研究、教育に携わることが出来ますこと、大変嬉しく思っております。

生まれは新潟のお隣の富山です。しかしこれまでは、新潟には上越を越えて北へは訪れたことが殆どなく、交通手段も不便なためかお隣とはいえ近くて遠い間柄という勝手な印象を抱いておりました。高校までを富山で過ごし、卒業後平成9年に北九州市小倉にある九州歯科大学に入学しました。中学校の修学旅行で1度渡っただけの本州と九州とをつなぐ関門海峡でしたが、大学入試の時に2度目を渡り、その後大学時代には身近なドライブコースになるとは思いもしませんでした。ちなみに北九州ご出身の方はご存じと思いますが、北九州側から関門海峡を望むことができる門司の「めかり公園」はとても夜景がきれいですので、お近くに行かれる機会がございます際には足を運んでみられることをお勧めいたします。実家から遠く離れた場所での大学生活でしたが、尊敬すべき先輩と頼りになる後輩、そして素晴らしく楽しい同級生に恵まれ、また大学の気質そのものが私に意外と合っていたのだと思いますが、6年間を謳歌することができたと感じております。

平成15年に大学を卒業すると同時に、九州大学大学院歯学研究院小児口腔医学分野(小児歯科学)に大学院生として入局いたしました。大学院2年目からは、同大学の口腔機能解析学分野(口腔生理学)二ノ宮裕三教授の教室にて、味覚を中心とした口腔感覚情報の生理調節機構の研究に携わっ

てきました。ヒトや動物を用いた研究によって、摂食関連ホルモンによる味覚修飾機序についての研究をしておりました。二ノ宮教授の教室は、教授のお人柄そのものだと思うのですが非常にエネルギーで活気に溢れており、その中で私もエネルギーを分け与えていただいて大学院での研究生生活を送らせて頂きました。大学院卒業後は野中和明教授の小児歯科学教室に戻りまして、医員として1年間、助教として2年間、小児における一般歯科臨床、障害児(者)および有病児における歯科臨床、学部教育に従事してまいりました。ことに臨床においては、小児や障害児・者の種々の疾病から引き起こされる口腔機能障害に遭遇し、全身機能と口腔機能との関連を含めて、歯科が果たすべき役割の重要性を日々感じております。

最後になりましたが、このような誌面を頂戴したことに感謝申し上げますとともに、微力ではございますが、新潟大学歯学部の発展に少しでも貢献してまいりたいと思いますので、今後のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

\*



生体歯科補綴学分野

秋 葉 奈 美

2011年2月より助教として生体歯科補綴学分野でお世話になっております秋葉奈美と申します。歯学部ニュースに寄稿させていただくのは初めてなので挨拶を兼ねて簡単に自己紹介させていただきます。

生まれは宮城県仙台市で幼少期を仙台で過ごしました。その後、転居し高校卒業までを茨城で過ごしましたが、縁あって東北大学歯学部に入學し、

学生生活、研修医、大学院と12年以上を再び仙台の地で過ごしました。昨年の震災では、多くの友人や知人が被災し大変心が痛む思いでした。歯学部の建物も老朽化が進んでいたこともありかなりの被害があったと聞いています。昨年の夏に仙台を訪れた際には、町はだいぶ活気を取り戻しており少し安心いたしました。何も力になれず自分の無力さを感じるばかりですが、一日も早い復興を切に願っています。

大学院卒業後は、結婚を機に約3年間をアメリカで過ごしました。渡米してしばらくは現地の歯科医に勤務しておりました。言葉の問題など、とても苦労しましたが、他国の歯科事情に実際に触れることができたことは、歯科医として知見も広がり、とても良い経験になったと今では思っています。その後、Cornell Medical Collegeにてポスドク研究員として働く機会をいただき1年間研究したのち、2009年3月に日本に帰国し新潟にやってまいりました。

早いもので新潟に来てもう少しで3年になります。私は町に川が流れる新潟の風景が大好きなのですが、ただ今3度目の冬真只中。いまだにどんよりした冬空には慣れることができず、春を待ちわびています。

2010年7月に出産し一児の母となりました。少し前にお腹の大きな白衣の女性を廊下で見かけていたらおそらくそれが私です。身長が小さいためか、かなり早い段階でお腹が大きくなり産休前にはお腹が邪魔して治療が難しくなるほどでした。当時、新参者として目立たないようにしていたつもりだったのですが、大きなお腹でのしのし歩いていたのが実は結構目立っていたのか、出産後に『前はもっと偉そうに見えたのに何だかずいぶん小さくなったね。』なんてからかわれたりしました。現在は、無事に女兒を出産し仕事復帰して子育てと仕事の両立を目指して日々奮闘しております。なかなか思うようにいかず、子育てをしながら臨床、教育、研究をこなす難しさを痛感しております。

新潟大学歯学部の特徴、素晴らしい点として一口腔単位の診療参加実践型臨床実習があげられると思います。私も学生時代に母校で参加型臨床実習を経験しておりますが、教員になり改め

てこの臨床実習が患者様の協力とライターの方の努力の上に成り立っているものだと実感しました。私もその一端を担う者として責任を感じ、また教育の難しさを感じております。こんな私を医局員として迎え入れて下さった魚島教授をはじめとした分野のスタッフに感謝すると共に少しでも皆様に貢献できるよう努力していきたいと思えます。今後ともよろしく願いたします。

＊



組織再建口腔外科学分野

三上俊彦

はじめまして。2011年4月より特任助教を拝命致しました組織再建口腔外科学分野の三上と申します。文章力に自信がありませんが、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

私は秋田県北部に位置する鷹巣町で生まれ育ちました。鷹巣町は面積こそ広大ですが小さな町で、皆さんご存知ギネス認定世界一の「綴子太鼓」が有名です。鷹巣町は周囲を山で囲まれた盆地で、今現在は4町が合併して北秋田市となっております。もともと面積が広がったのにさらに大きくなってしまい、全国の市・面積ランキングで15位をマークするほどに膨張しました。その結果、全国の市・人口密度ワーストランキング6位です。これだけ聞くとかなりの田舎という印象を与えるかと思いますがやはり郷里はよいもので、たまに実家に帰るとホッとします。周囲を山に囲まれている安心感と言うか、言葉も濁点はずさなくていいのでとても楽なのです。そんな片田舎で高校卒業までの多感な時期を過ごし、おかげさまで流暢な秋田弁をマスターすることができました。

高校卒業後は1年間仙台市で浪人生活を送ったのち、1999年4月に本学歯学部に入りました。新潟は東北の一部のようなものと認識していましたが、初めて新潟市を目の当たりにしたときにはその言葉の綺麗さと女子高生のスカートの短さに

衝撃を覚えたことを今でも鮮明に思い出せます。同期生も新潟県外出身は関東方面が多く、東北よりは関東との繋がりを感じ、新潟の印象がガラリと変わりました。少し淋しかったです。入学後は流暢な秋田弁が災いして友人とのコミュニケーションに難渋した覚えがあります。7の月まであと4か月だあと物思いにふけていたらあっという間にめでたく卒業することになり、その時にはすっかり訛りもとれてもはや流暢な秋田弁が話せなくなってしまいました。と、思っていたがそんなことはなかったです。

新潟大学歯学部卒業後は組織再建口腔外科学分野に大学院生として入局し、1年間口腔外科臨床を経験した後、口腔病理学分野で3年程お世話になりました。口腔癌境界病変に関する研究をテーマとし、朔教授をはじめたくさんの方から薫陶を受け沢山の貴重な経験をさせていただきました。病理診断業務に直接かかわることはありませんでしたが多種多様の病理組織を見る機会をいただき、口腔外科学(臨床、マクロ)と口腔病理学(基礎、ミクロ)の連携の大切さ、なにより両者の視点で病態をとらえようとする姿勢を学べたと強く実感しています。

大学院卒業後は山形県鶴岡市の荘内病院に1年間出向し、2010年4月には口腔再建外科医員として戻ってきました。この1年間で私の矯正された言葉は一瞬で「あともどり」した様子で、今現在も矯正中です。

今後も諸先生方にはお世話になることもあろうかと思えます。こんな私ですが、自分なりに研鑽を積みながら教育・研究・臨床に精進する所存であります。何卒よろしく願いいたします。

\*



予防歯科学分野

小川 友里奈

2011年4月より予防歯科学分野にてお世話に

なっております、小川友里奈と申します。この度は『素顔拝見』ということで依頼を頂きましたので、恐縮ですが自己紹介等含め書かせて頂きました。

私は愛知県の豊川市出身です。愛知県と言えば名古屋ですが、私の地元、豊川市は名古屋から静岡方面へ東名高速道路で約1時間のところ。有名なものと言えば日本三大稲荷と言われている豊川稲荷でしょうか。ただ、あまりご存知ない方も多くおられるのではと思いますが、商売繁盛の御利益があるということで有名ですので、興味のある方は是非一度訪れてみて下さい。私は、地元の愛知県立国府高等学校を卒業後、歯科衛生士になるため自宅からほど近い豊橋歯科衛生士専門学校へ通い、卒業後は自宅からほど近い開業医で歯科衛生士として4年間勤務しました。豊川で生まれ、約24年間を過ごし、それまで豊川・豊橋エリアから離れたことはありませんでした。私の勤務していた開業医で3年目が過ぎた頃ようやく一通りの業務をこなせるようになり、スキルアップをしたいと思うようになりました。これをきっかけに、本学歯学部口腔生命福祉学科3年次編入を果たし、初めて地元を離れて生活することになりました。なんととっても新潟の冬は独特の雰囲気、冬でも青空の下で育ってきた私にはなかなか慣れない気候でした。そのため、卒業後は地元へ戻ろうと思いつつ、あつという間に5年が過ぎようとしております。その上、御縁を頂き、結婚までさせて頂きましたのでもうしばらく新潟から離れられそうにありません。

口腔生命2期生で卒業し、その後、当院診療支援部の歯科衛生部門で歯科衛生士として勤務させて頂きました。順に予防歯科診療室、矯正歯科診療室に勤務し、平成22年12月末で退職しました。同時に口腔生命福祉学科卒業後は口腔生命福祉学科で社会人大学院生となり、平成23年3月に修士課程を修了致しました。尚現在は平成23年4月より国際イニシアティブ人材育成プログラムというプロジェクトにより、主に予防歯科学教室でお世話になっております。そのため平成23年度は国際的な一年でした。というのも、歯科衛生士室を退職後、スイスのジュネーブで2ヶ月間の生活を



し、さらに WHO（世界保健機関）へも出入りさせて頂き、これまでにない経験をさせて頂きました。WHO のあるジュネーブはフランス語圏でしたが、WHO の中では英語が基本で、英語は話せて当たり前といった環境でした。その後 7 月にカンボジアでのキャリアレーションセミナーへ同行させて頂き、11 月はインドネシアで国際シンポジウムが開催され、他国へ行くチャンスを数多く頂きました。さらに、9 月末から 10 月末にはインドネシアやタイなど多くの留学生も来日し、共に学ぶ機会も得ることができました。このような経験から、国際社会で活躍していく上で語学力が如何に重要かということを実感しました。私自身今後、さらに磨きをかけ、歩んで参りたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

＊



顎顔面口腔外科学分野

小林 孝 憲

平成 23 年 8 月 1 日より顎顔面口腔外科学分野の助教を拝命いたしました小林と申します。よろしくお願いたします。

出身は新潟県の津南町です。人口は 1 万 1 千人ほどと減少傾向ですが、農業を中心としたほんわかとした町です。人も温かく普段は穏やかな土地ですが、冬は県下有数の豪雪地帯として有名で、例年 2～3 m、ときには 4 m を超える積雪がみられます。津南町のキーワードといえば、豪雪のほか、魚沼産コシヒカリ、グリーンピア津南、ひまわり広場、河岸段丘（日本一）、龍ヶ窪、秋山郷などでしょうか。いずれも自然の豊かさを象徴するような環境や施設がそろっており、小さい頃は夏は川遊び、秋は紅葉、冬はスキーを楽しんでおりました。またキャンプ施設もいくつかそろっており、前述したグリーンピア津南やマウントパーク津南、無印良品キャンプ場があります。ご家族で

も楽しめる施設となっておりますので、皆さまも機会がありましたら是非お立ち寄りください。

中学時代までを津南町ですごし、高校は旧大和町の浦佐にある県立国際情報高校に入学、その後、平成 8 年に新潟大学歯学部に入學しました。学生時代は中・高そして大学と 12 年間バスケットボール部に所属し、勉強というよりバスケットをしている毎日でした。中学生の頃は身長が低くかわいらしい感じでしたが、高校入学から大学時代まで身長が伸び続け、大学院の頃になりますと側方にも成長するようになり、現在ではすっかりぽっさり～巨漢といわれるまでに育つことができました。

大学卒業後は平成 14 年に顎顔面外科に入局して大学院へ進学し、その後、口腔病理学分野の朔敬教授のもとで研究と病理診断業務に従事させて頂きました。主たる研究テーマは〈口腔粘膜の悪性境界病変〉で、浸潤癌周囲にひろがる異型上皮や上皮内癌といった境界病変に注目し、これまで主観的、経験的に行われていたこれらの病理診断について、科学的根拠に基づいた判定基準を確立するというものでした。境界病変についてはまだまだ不明な点も多く、さらにここ数十年にみる口腔癌の増加傾向からも、その背景となる同病変の的確な診断基準と方法の確立が急務であり、今後とも研究を継続していく予定であります。

学位取得後も縁あって歯科病理検査室で 3 年ほど病理診断業務に携わり、病理には計 6 年間お世話になりました。この期間に朔先生をはじめ程瑗先生、依田浩子先生といった諸先生方から受けたご指導や研究に対する姿勢は、臨床・研究を続けていく上で私自身の根幹となっております。今後も日常診療や研究では、教えていただいた研究心を胸に日々努力する所存であります。

最後に、病理や関連病院へ快く送り出さただき研鑽を積ませてくださった高木律男教授、また顎顔面外科の皆さまには深く感謝しております。今後は微力ながら当科の発展にお力添えさせていただくとともに、新潟大学歯学部の発展に貢献してまいりたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。